

研究課題名	左心系弁膜症に合併した三尖弁逆流症例と右心系容量負荷型先天性心疾患に合併した三尖弁逆流症例におけるTAP前後の三尖弁・右室形態変化の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院 心臓血管外科
研究責任者	所属 心臓血管外科 氏名 竹下 齊史
研究期間	(西暦) 2024年8月～(西暦) 2024年11月
研究の意義・目的	三尖弁のtetheringは右室拡大による乳頭筋偏位により三尖弁接合点が右室心尖部方向に移動する現象であるが、このtetheringを合併したTR症例に対しては、筆者からのものも含めて様々な三尖弁下手技が報告されている。これらの共通点は、右室壁・乳頭筋に介入し、拡大した右室を縮小・矯正することでtetheringを改善させる点であり、左心系弁膜症に合併した機能性三尖弁逆流症例を対象とすることが多い。一方、左右短絡による右心系容量負荷型先天性疾患であるASD、PAPVRに合併したTRも右室拡大を伴うtetheringを合併することがあり、これらにも弁下手技を適応した報告も散見される。しかしこの疾患群は、短絡を閉鎖するのみで右室縮小効果があり、術後の右室形態変化やtethering TRの改善が、弁下手技を併施した効果かを評価することが困難である。そこで、当院の左心系弁膜症合併症例と右心系容量負荷型先天性心疾患症例に対してTAPのみ施行した症例の経胸壁心エコー検査(TTE)から、弁下手技非施行症例の術前後右室形態・三尖弁接合形態変化の検討を行う。
研究の方法 (対象期間含む)	2019.1から2024.3までの三尖弁手術50例のうち、術前moderate以上のTR症例を対象とし、これらを僧帽弁手術とともにTAPを施行した27例(L群)と、ASD/PAPVR根治術とともにTAPを施行した2例(C群)に分類した。全例僧帽弁手術、もしくはASD/PAPVR根治術後に人工弁輪によるTAPを施行。術前、術後のTTEデータを後方視的に解析し、比較検討を行う。
①試料・情報の利用 目的および利用方法	①試料・情報の利用目的および利用方法 上記“研究の意義・目的”“研究の方法”を参照のこと。
②利用し、又は提供する 試料・情報の項目	②利用し、又は提供する試料・情報の項目 年齢、性別、診断名、画像診断結果(術前後エコー、冠動脈造影、CT、MRI、シンチグラム等)、手術術式、周術期データ、術後経過等
③試料・情報の取得 の方法	③試料・情報の取得の方法 カルテ記載情報から抽出。
④利用する者の範囲	④利用する者の範囲 本研究における研究責任者、研究分担者が該当する。
⑤試料・情報の管理 について責任を有する 者の氏名又は名称	⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 研究代表者 竹下 齊史、武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 心臓血管外科 氏名 竹下 齊史 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525